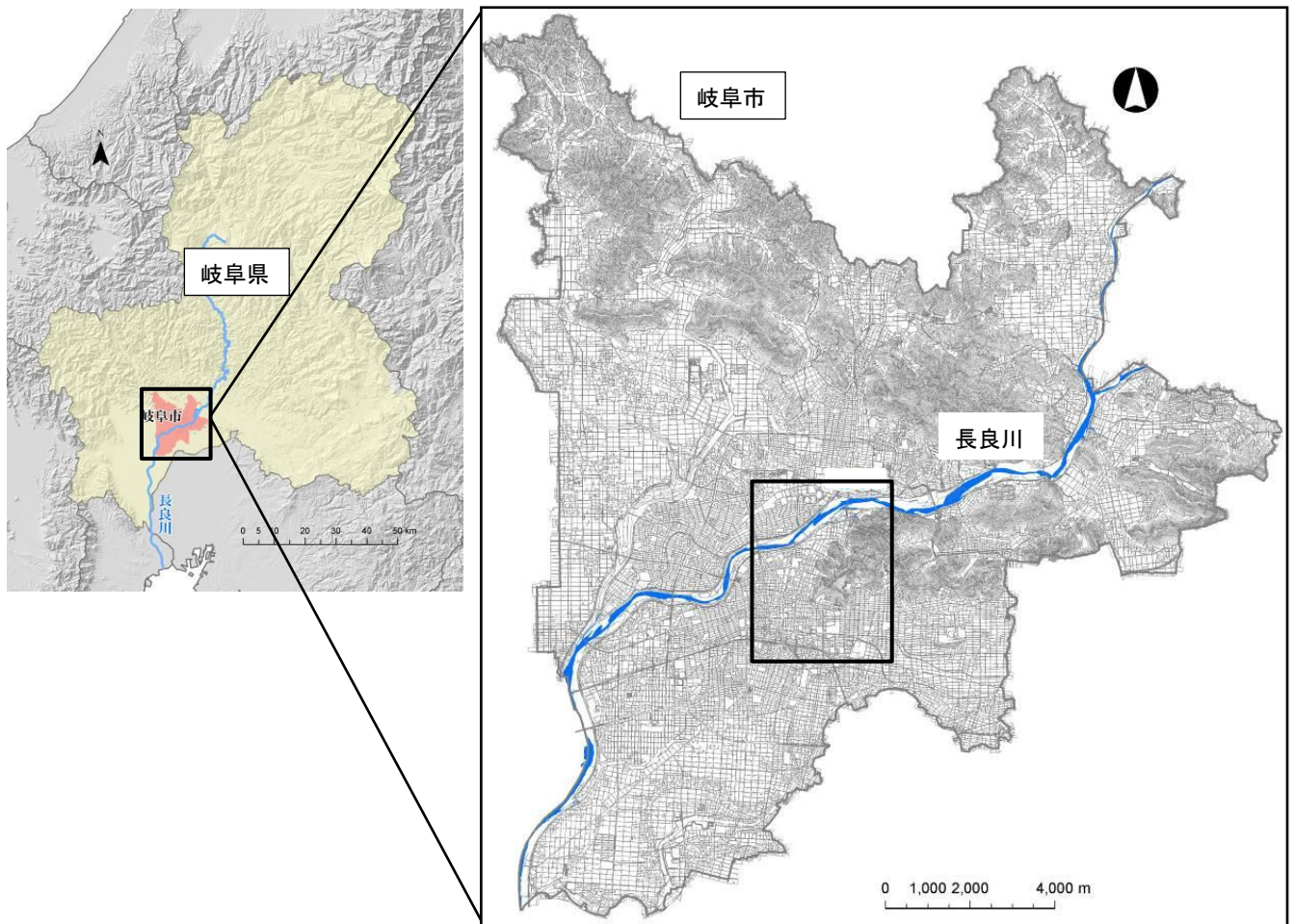
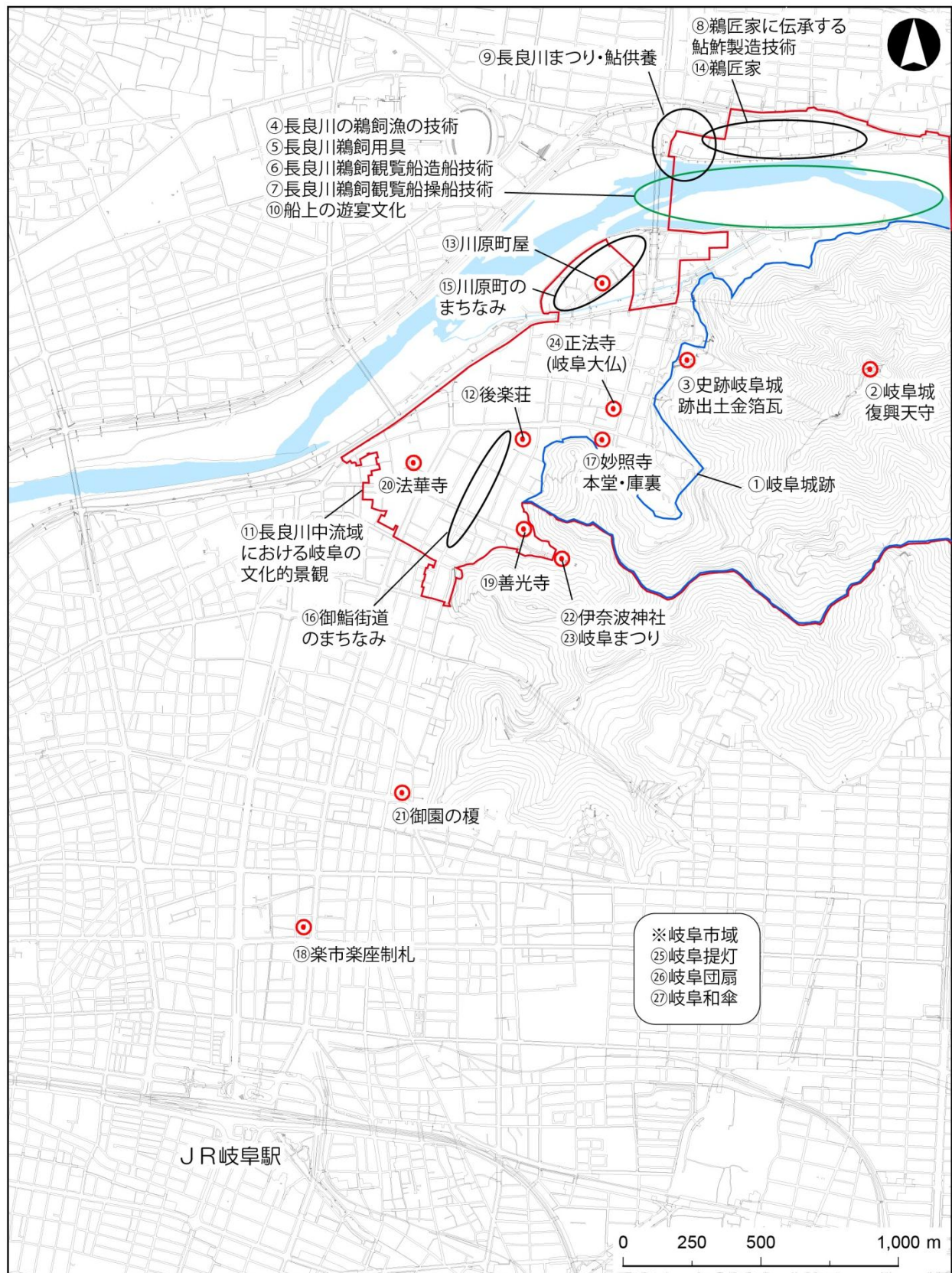


① 申請者	岐阜市	② タイプ	<div>地域型 / シリアル型</div> <div>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D E</div>	
③ タイトル				
<p>【「信長のおもてなし」が息づく戦国城下町・岐阜】</p>				
④ ストーリーの概要（200字程度）				
<p>戦国時代、岐阜城を拠点に天下統一を目指した織田信長。彼は戦いを進める一方、城内に「地上の楽園」と称される宮殿を建設、軍事施設である城に「魅せる」という独創性を加え、城下一帯を最高のおもてなし空間としてまとめあげる。</p> <p>自然景観を活かした城内外の眺望や長良川での鶺鴒観覧による接待。冷徹なイメージを覆すような信長のおもてなしは、宣教師ルイス・フロイスら世界の賓客をも魅了した。信長が形作った城・町・川文化は城としての役割を終えた後も受け継がれ、現在の岐阜の町に息づいている。</p>				
⑤ 担当者連絡先				
担当者氏名	岐阜市教育委員会社会教育課信長学市史編さん係 高橋 方紀			
電 話	(058) 214-2365 (直通)	FAX	(058) 265-4333	
E-mail	takahashi-masano@city.gifu.gifu.jp			
住 所	〒500-8720 岐阜県岐阜市神田町1-11			

市町村の位置図（地図等）



構成文化財の位置図（地図等）



ストーリー

戦国時代、**織田信長**の義父にあたる斎藤道三は井口（いのくち）と呼ばれる城と町を築いた。後にその町を手に入れた信長は、この地を**岐阜と名付けるとともに「天下布武」**を掲げ、天下取りの夢に邁進する。**日本史上、最も有名な人物の一人**である彼は、冷徹非道、戦上手、改革者、破壊者等のイメージで語られることが多いが、急峻な岐阜城やその城下で行ったのは戦いではなく、意外にも手厚いおもてなしであった。信長は軍事の力で征服するだけでなく、**文化の力で公家、商人、有力大名等の有力者をもてなす**ことで、仲間を増やしていったのである。

岐阜城に入城した信長は、最初に城の大改造に着手する。山麓では比類ない**巨大庭園を持った迎賓館**が造られた。近年、岩盤を自然風に加工した庭園が発掘調査により複数見つかっており、その全体像が判明しつつあるが、それはまるで山水画の世界を原寸大で再現したような壮大なスケールで、他に例がない。ルイス・フロイスは、山麓の建物を「宮殿」と称し、**「地上の楽園」**のようであったと記している。山上の城郭部分は石垣を用いて堅固な城郭に造り替えられたが、信長はなんとその場所にも人を招いた。このように彼は戦いを進める一方、金華山や長良川の美しい自然環境や眺望を活かして、岐阜の地に**最高のおもてなし空間を創出**していったのである。そして限られた人しか入れない特別な場所で、通常家臣が行うような案内や給仕を自ら行う、これが**信長流のおもてなし**であった。

武田信玄の使者「秋山伯耆守」、京都の公家「山科言継」、堺の茶人・商人「津田宗及」、そしてイエズス会宣教師の「ルイス・フロイス」や「フランシスコ・カブラル」、多くの有力者が信長に会いに岐阜を訪れ、冷徹なイメージを覆すおもてなしを受けている。そして、その様子は国内のみならず、手紙を通じて広くヨーロッパにも伝わった。

もてなしの拠点である山麓居館は訪問者が最初に招かれる場所で、そこでは建物や庭の見学、踊りと歌、オヤツや食事、贈り物等が行われた。日本布教長フランシスコ・カブラル来訪の際、信長は歓迎の晩餐会を開くが、食事までの待ち時間に自ら果物を持っていくとともに、庭にいる鳥を殺させて料理に出すよう命じている。また名物茶器拝見のため訪れた津田宗及に対しては、彼のためだけの茶会を開き、美濃特産の干柿を含んだ豪華な料理を振る舞うなどして、その思いに応えた。堺の代表的な町衆であった宗及の扱いは破格で、食事の給仕は信長の息子信雄が行った上、飯のおかわりは信長自らがよそっている。

フロイスや山科言継は山上にも招かれ、**軍事施設である城内の見学**をした。豪華な座敷では音楽を聴きお茶や食事をいただいたが、その際も信長が膳を運んだり、給仕を行った。濃尾平野を一望する**山上からの絶景**は、昔も今も大



山麓居館の庭園復元イメージ



津田宗及に振る舞われた料理の復元



フロイスと信長（イメージ）

きな見どころである。言継は「**險難の風景、言語に説くべからず**」とその感想を記している。

信長は、楽市楽座の一方で川湊の商人に舟木座の結成を認めるなど柔軟なまちづくりを行い、道三が築いた長良川の水運を基軸とした城下町を**国内有数の商業都市**へ発展させた。街路はこの時から変わっておらず、「**戦国城下町**」としての町の骨格は、現在に継承されている。フロイスはその町に一万人が住んでいたと記し、賑わいの様子を「バビロン」の混雑と表現した。また柴田勝家の邸宅では「食事をするまで帰してもらえなかった」そうで、**城下町での手厚いおもてなし**が窺える。

言継は一ヶ月以上に及ぶ岐阜滞在期間中に、善光寺や法華寺など城下町の名所を訪れているが、評判の灯籠は人ごみが激しかったため見物を断念している。時期が合えば伊奈波神社の祭礼も見物しただろう。**岐阜まつり**と呼ばれる一連の祭礼は地域を代表する祭りとして継承されており、踊山車やカラクリ山車、神輿の練り込みが披露されるなど春の風物詩となっている。城下町では団扇など、上流から運ばれた和紙や竹などを用いた文化が育まれた。その文化は廃城後もさらに洗練され、提灯や和傘、そして日本最大の漆箔の大仏である岐阜大仏を生み出し、町に更なる賑わいをもたらした。

秋山伯耆守は山麓での食事や能の鑑賞の後、長良川での船による**鵜飼観覧に招かれた**。信長は武田信玄に気を遣い、獲れた鮎を自ら確認して甲府に届けさせている。また信長は「鵜匠」の名称を与え、禄米十俵を給して保護したと伝えられており、その後も徳川家康・秀忠親子が鑑賞しこれを称えたことで、鵜飼は時代を通じて大事に守られてきた。

松尾芭蕉は「**おもしろうてやがて悲しき鵜舟かな**」と有名な句を残しており、近代には英国皇太子やチャップリン等、国内外の賓客が鵜飼観覧に訪れている。

鵜飼でとれる鮎は、柿と共に古代から美濃の特産品であった。江戸時代になると町中の御鮎所で調製された**鮎鮓**が、御鮎街道と呼ばれる道を通って将軍家に献上されるようになる。現在も鵜匠家には鮎鮓の製造技術が伝承され、年末年始の贈答用として製造されている。鵜飼を中心としたお客をもてなすための様々な技術や遊宴文化は今も伝承され多くの観覧客を魅了しているが、このような**鵜飼文化は日本独自の**ものであり、現代まで途切れることなく受け継がれているものは長良川の鵜飼のみである。

自然景観を背景に行われる饗応は、中世以前から日本各地に存在するが、その根底には自然に溶け込むことに美意識を見出すという**日本人の伝統的な価値観**がある。信長は金華山や長良川、城下町の賑わいが一体となった素晴らしい景観や鵜飼文化にその価値を見出した上で、軍事施設である城に「**魅せる**」という**独創性を加え**、他に例の無いおもてなし空間としてまとめあげ、饗応を行った。岐阜は**信長自慢のおもてなし都市**だったのである。その**信長が形作った戦国時代の城・町、そして長良川の鵜飼文化**は、岐阜城が城としての役割を終えた後も受け継がれ、今も岐阜の町に息づいている。

なお、信長はフロイスとの別れ際に次のように告げている。「**美濃へは何度でも訪れよ**」と。



岐阜まつり



鵜飼観覧の様子

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
①	岐阜城跡	国史跡	信長の居城。山上の城郭と山麓の居館の2ヶ所でもてなしが行われた。江戸時代も尾張藩主らが見物に訪れており、明治以降になると一般に開放された。	
②	岐阜城復興天守	未指定	天守からの眺めは多くの人を魅了した。その姿は、遠くからでも存在感を示し、岐阜市のシンボルとして親しまれている。現在は昭和31年に造られた2代目の復興天守。	
③	史跡岐阜城跡(織田信長居館跡)出土金箔飾り瓦	市重要文化財	岐阜城山麓のもてなしの場である中心建物を飾った金箔瓦。日本で初めて城郭で用いられた。	
④	長良川の鵜飼漁の技術	国重要無形民俗文化財	近世以前からの伝統を継承した漁法。信長をはじめとする時の権力者は、鵜飼見物をおもてなしとして用いた。江戸時代以降もチャップリンをはじめ、世界の賓客が見物している。	
⑤	長良川鵜飼用具	国重要有形民俗文化財	長良川の鵜飼に関する用具一式。鵜匠の伝統的な装束は江戸時代後期には成立した。	
⑥	長良川鵜飼観覧船造船技術	市無形民俗文化財	客を乗せるために屋根を備えた観覧船の需要が高まり、他の川船と異なる観覧船造船技術が発達した。	
⑦	長良川鵜飼観覧船操船技術	市無形民俗文化財	船からの鵜飼見物を支える船頭の操船技術。河床が川石である環境に合わせ、サオを主体にカイを併用する操船技術が発達した。	
⑧	鵜匠家に伝承する鮎鮓製造技術	市無形民俗文化財	古代から献上品として珍重されてきた鮎鮓の製造技術。岐阜の食文化を示すもので、今も年末年始の贈答用に製造されている。	
⑨	長良川まつり・鮎供養	未指定	鵜飼にまつわる祭事。旧暦6月6日に神明神社で行われる水運安全祈願の祭礼で、同じ日には鵜匠をはじめとする関係者による鮎供養の祭事が行われる。	
⑩	船上の遊宴文化	未指定	長良川の舟遊びの文化。中世においても鵜飼観覧と舟遊びは一体のものであった。現在も長良川鵜飼から生まれた小唄「風折烏帽子」などの伝統的な遊興文化が良好に継承されている。	
⑪	長良川中流域における岐阜の文化的景観	国重要文化的景観	もてなしの舞台となった長良川、岐阜城・金華山、城下町一帯の景観。街区などのまちの骨格は戦国時代にまでさかのぼる。	

⑫	後楽荘（日本料理店）	文化的景観 重要な構成要素	まちでのおもてなしの場のひとつ。明治時代以降、金華山を眺望できる部屋で客をもてなした。	
⑬	川原町屋（喫茶店）	文化的景観 重要な構成要素	まちでのおもてなしの場のひとつ。天守を眺望できる部屋をもうけて、客をもてなした。部屋は明治末の復興天守建設を受けて造られた。	
⑭	鵜匠家	文化的景観 重要な構成要素	鵜飼屋地区に存在する 6 件の鵜匠の家。主屋のほか、鵜の世話や漁の運営に必要な鳥屋、水場、松小屋などが設けられている。	
⑮	川原町のまちなみ	文化的景観 重要な構成要素	川湊の近くに発展した集落。かつては多くの紙問屋や材木問屋が軒を連ね、現在も独特の白木の格子が続く美しい町並みが継承されている。一部の建物は文化的景観の重要な構成要素となっている。	
⑯	御鮪街道のまちなみ	文化的景観 重要な構成要素	当時の主要道路。江戸時代、鮎鮪を江戸まで運んだため御鮪街道と呼ばれるようになった。現在も旧紙問屋など多くの店舗が立ち並ぶ。	
⑰	妙照寺本堂・庫裏	市重要文化財	江戸時代、松尾芭蕉が約 1 ヶ月滞在した寺。芭蕉はここを拠点に金華山登山や鵜飼見物を行った。また岐阜御成の際には藩主の休憩所ともなった。	
⑱	楽市楽座制札附織田信長 百姓帰住制札 5 点	国重要文化財	当時のまちのにぎわいを物語る資料。信長がまちの活性化のため出した制札。	
⑲	善光寺	未指定	山科言継が訪れた城下町の名所で、滞在中に 2 度お参りに訪れている。信長の嫡子信忠により信州の善光寺如来が移されていた時期もあった。	
⑳	法華寺	未指定	山科言継が訪れた城下町の名所。信長の入城後に清須から移転したと伝えられる寺で、言継は長良川とセットで訪れている。	
㉑	御菌の榎	市史跡	当時のまちのにぎわいを物語る場所。楽市の市神として祀られたとされる榎で、江戸時代、朝日文左衛門は金華山観光をする前に立ち寄っている。	
㉒	伊奈波神社	未指定	天文 8（1539）年、築城に伴い斎藤道三が金華山から現在地に移したと伝えられる。岐阜市の総氏神で旧県社。	
㉓	岐阜まつり	市有形民俗文化財	中世から続く伊奈波神社の祭礼。現在は 4 月第 1 土曜日に行われている。江戸時代の史料には 27 台の山車が描かれるなど町を挙げての祭りであった。現在残されている 4 台の山車は、市の文化財に指定されている。	
㉔	正法寺（岐阜大仏）	文化的景観 重要な構成要素 県重要文化財 市重要文化財	材木や竹、和紙等からなる民芸的な大仏は、大仏殿と一体で造られ、町のランドマークになっている。武家屋敷跡地に立地しており、まちでのおもてなしの拠点の一つ。近年まで境内で精進料理も提供していた。	

②⑤	岐阜提灯	国登録有形民俗文化財 (H28. 1. 15 答申、 H28. 3 告示予定)	上流から運ばれた美濃和紙と近隣で産出された良質の竹を利用して造られる工芸品。言継の記録にある、京都まで評判が知れ渡っていた美濃の灯籠は、この提灯であった可能性がある。	
②⑥	岐阜団扇	未指定	美濃の手漉き和紙と良質な竹を用いて作られた工芸品。室町時代には岐阜の団扇が宮中に献上されていたとの記録がある。	
②⑦	岐阜和傘	未指定	江戸時代、下級武士の内職として奨励されたことにより、地場産業としての基礎が確立された。現在も、加納地区を中心に伝統の技が受け継がれている。	

(※ 1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。

(※ 2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること(例：国史跡、国重文、県有形、市無形、等)。

(※ 3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること(単に文化財の説明にならないように注意すること)。

(※ 4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること(複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること)。

構成文化財の写真一覧

① 岐阜城跡



② 岐阜城復興天守



③ 史跡岐阜城跡（織田信長居館跡）出土金箔飾り瓦



④ 長良川の鵜飼漁の技術



⑤ 長良川鵜飼用具



⑥ 長良川鵜飼観覧船造船技術



※複数ページにわたっても可

⑦長良川鵜飼観覧船操船技術



⑩船上の遊宴文化



⑧鵜匠家に伝承する鮎鮓製造技術



⑪長良川中流域における岐阜の文化的景観



⑨長良川まつり・鮎供養



⑫後楽荘（座敷からみた岐阜城）



※複数ページにわたっても可

⑬川原町屋（座敷からみた岐阜城）



⑯御鯔街道のまちなみ



⑭鵜匠家



⑰妙照寺本堂・庫裏



⑮川原町のまちなみ



⑱樂市樂座制札



⑱善光寺



㉒伊奈波神社



㉓法華寺



㉔岐阜まつり



㉕御菌の榎



㉖正法寺（岐阜大仏）



②⑤ 岐阜提灯



②⑥ 岐阜団扇



②⑦ 岐阜和傘

